





「…………ぐッ!?!」

「留姫の処女もらったぞお♪
一生に一度の処女をおじさんもらっちゃったからねえ♪」





「う……ッ!? ああああああああッ!?
う、動かないで……!! ああああああッ!?!」



「ほらほら、留姫のモチモチしたお尻をパンパンしちゃうぞお♪
子宮コンコンしちゃうぞお♪」



「だ……誰が……!! アンタみたいな卑怯者のオヤジなんかと……!!」



「気持ちいい♪もう留姫はもうおじさんのモノだよ♪結婚しよう? おじさんと結婚しようね♪」



「ふざけんじやないわよ!! ならない! 絶対・・・絶対ならない!!
アンタなんて死んだってお断りよ!!」



「生意気な留姫も可愛いよ♪安心して♪
留姫がおじさんを好きになるまで、何度でもしてあげるから♪」



「うぎいいいいい!? いやあ・・・!! こんなの・・・
たすけて・・・レナモン・・・レナモン・・・」



「おじさんは留姫の事大好きだよ♪ 大好きだよ♪
ほら、大好き大好きって留姫の子宮コンコンしてるぞお♪」



「ま……まさか……!? い、いやあああああああああッ!!
やだあ……!! 子供なんて嫌ッ!! アンタの子供なんて絶対嫌ッ!!」



「さあ、大好きな留姫に中出しするよ♪
楽しみだなあ♪ おじさんの子供産んでね♪ 留姫♪」



「は、離して!! イヤー! やだ... やだ... やだ... !!
レナモン... レナモン... レナモン... レナモン... ツ!!」



「孕め孕め♪ 留姫、孕んで♪
おじさんの子供産もうね♪ 赤ちゃん作ろうね♪」



「ダメダメ♪抜かないよお♪
子宮に入口に栓して一滴も零れない様にするね。」
「お・・・!?おお・・・!?あ・・・かは・・・ツツ!?」





「あ……ああ……」
（レナモン……お願い……早く……助け……て……）

「留姫は本当に可愛いなあ♪これからずっと……
おじさんと一緒にだよ♪一緒に暮らそうね♪留姫♪」





「あ……♡あぁ……♡あぁ……♡」



数日後……

「留姫……留姫……可愛い留姫♪」

「おじさんだけの可愛い留姫♪今日も本当に可愛いよ♪」



「ち、違う・・・!!そんな事・・・ない・・・!!」
(駄目なのに・・・変な声出ちやう・・・!?)



「すっかりチ●ポの気持ち良さを覚えたね留姫♪
セックス気持ちいいだろ?チ●ポ気持ちいいだろ?」



「ああ・・・!?な・・・なんで・・・動きを・・・!?」



「そうか・・・気持ちよくないのか・・・
それは残念だなあ・・・」



「ぐう……う……う……う……!?」
（あと少しで……イけそうなのに……ああ……!?）



「気持ちよくないんだろ? だったらこれ以上続けるのは
可哀想だからねえ。」



「だ……れ……が……!!」
（イきたい!!イきたい!!イきたい!!）



「留姫……イきたいか?イきたいだろ?
隠しても無駄だぞ?イきたいならイきたいと言いなさい?」



「だ・・・め・・・!!」
（それだけは・・・!?それだけは・・・!!）



「いきたいなら言いなさい。『おじさんの女になる』と
『おじさんと結婚する』『おじさんの子供産む』とな♪」



「おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおッ!」



「聞こえんぞ?
もっとしっかり・・・言いな・・・さっ!」



「は……い……❤️はい……誓い……ます❤️言います❤�」



「ちゃんと言えるな？留姫。おじさんのモノになると。おじさんの女になると誓えるな？」



ハア♥ハア♥結婚・・・♥おじさんと結婚します♥
おじさんの子供♥子供を産みます♥」



「私・・・牧野留姫は・・・♥あ・・・♥
お・・・おじさんの・・・お、女になります!!♥



「はい♥おじさん♥ください♥
せーし♥せーし♥ください♥せーし♥
せーし♥でイかせてえ♥」



「よく言った！今日から留姫はおじさんの女だ！
イかせてやるぞ！孕ませてやるぞお!!」



「あ……♡あぁ……♡はい♡」



「留姫……お前はもう私の女だぞ？
いいな？私のモノだ。」





「ハア♥ハア♥旦那様♥あなたと私の赤ちゃん
ああ♥お腹蹴りましたあ♥」



数ヶ月後・・・

「腹の子供も大分育ってきたな留姫。
私の子供だぞ？お前の全ては私のモノだ。」



「おほおツ!?♥気持ちいい♥気持ちいいですう♥
すごい♥すごく気持ちいい♥旦那様のチ○ポ大好きい♥」



「ドスケベ娘め!妊娠してるのにするセックスは
気持ちいいか?ええ?どうなんだ?」



「せーし♥せーし♥せーし♥
せーし♥欲しい♥孕ませ汁♥ザーメン♥射精好きいいい♥」



「出すぞお？妊婦ま●こに精子流し込むぞ？
留姫の大好きな孕ませ汁をたっぷり射精するぞ？」



「ああ……♡旦那様あ……♡大好きですう……♡
私の旦那様あ……♡♡♡」



「留姫……もうお前は完全に私のモノだ。
お前の人生は私のモノだ。絶対離さないからな。私の留姫」



「んあああああ……!?♥は……い♥はいいいい……♥
産みます♥いつぱい産みます♥旦那様の赤ちゃん産むう……♥」



「留姫!!留姫!!留姫!!私の留姫!
私だけの……私の留姫!!たくさん孕め!私の子を産み続ける!!」



「あへえあ♥はあい♥くだしやあああい♥
私のポテま●ここにたつぷり精子流し込んで下さあい♥旦那様ああ♥♥♥♥」



「おおお・・・まだ出る・・・たつぷりと注ぎ込んでやるぞ。
留姫の中にまだまあ精子流し込むからな。」